

令和7年度

岩脇学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○人の話をよく聞き、自らよく考え、進んで表現しようとする力の育成

校長

仁木 博史

学力向上推進員

仁木博史(校長)・三原泉(教頭)・
入口和美(教務・1年)・鹿島順子(特別支援)・
島田紋子(学力向上・研修・4年)

【各校の取組状況の把握について】

研究授業(大研・小研)や職員研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読みや簡単な計算は、繰り返し取り組むことで習得できている児童が多い。 ●家庭での自主学習や読書時間が少なく、語彙が少ないため、自分の考えを表現することに苦手意識を持っている児童がいる。	・授業時間一杯学習に真面目に取り組むことができる。 ・目を見て、人の話を最後までしっかり聞くことができる。 ・進んで読書をするができる。 ・学年に応じた漢字の読み書きや言葉の使い方身につけることができる。 ・基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、自主学習や日記等、他の学習や生活場面でも活用することができる。	・「岩小っ子授業のルール」を念頭に、学習規律の定着を図る。 ・「う(うなずきながら)め(目を見て)ら(ラストまで)い(一生懸命)す(スマイル)」を意識し、話の聞き方を見に付けさせる。 ・読書時間を確保し、本に親しませる。 ・視写、新聞やタブレットの活用等、学習活動の多様化に努める。 ・前時の復習や本時の振り返りを授業の中に取り入れる。 ・漢字の読みや計算練習等を定期的に繰り返し行い、基礎的・基本的な力の定着を図る。 ・児童の学習理解に応じて個別指導を充実させ、授業の流れや学習内容を視覚的に分かりやすく提示する。		・決まった時間に繰り返し基礎学習に取り組むことで、既習内容が定着してきた。 ・学習手順をスモールステップで提示することで、学習内容の習熟を図ることができた。 ・図書館サポーター等の協力により、本に触れる機会が増え、読書への興味が広がった。 ・単元が進むと、既習内容を忘れてしまう児童も多かった。 ・既習内容を日記などの日常生活の中で十分使いこなせていない。	・「岩小っ子授業のルール」の徹底に努め、自分から学習規律を守ろうとする児童を育てる。 ・系統的に基礎基本を身につけられる学習環境を整える。 ・様々な生活場面でも既習内容を活用しながら課題に取り組むことができる児童を育てる。 ・読書時間を確保するとともに、新聞の活用や本の紹介等を通して、語彙力を高めるよう努める。 ・個々に応じた学習の積み重ねを工夫し、個別による支援を充実させる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表の方法や手順が分かると意欲的に学習に取り組むことができる。 ●筋道を立てて考えたり、他人の意見と自分の考えを比較して判断したりすることが苦手な児童が多い。 ●課題や目的に応じて表現したり、さらに発展させて考えたりする力が不十分である。	・聞く態度を身につけるとともに、しっかりと自分の考えを伝えることができる。 ・課題や目的に応じて筋道を立てて考え、理由や根拠を明らかにして考えを進んで表現し、課題を解決することができる。	・授業形態の工夫をしたり、適切な助言や模範等を示したりすることで、意欲的に意見を伝え合うことができる環境を整える。 ・考えたことを発表したり文章で表したりする場を積極的に設ける。 ・ペアやグループ学習を効果的に取り入れ、話し合い活動の経験を重ねる。 ・タブレット等を活用し、児童同士で情報を共有したり比較したりすることができる活動を取り入れる。 ・5W1Hを意識させ、文章表現や発表内容を組み立てる力を身につけさせる。		・友達の考えに触れる機会を増やしたことで、学習の進め方を理解して課題に向き合える児童が増えた。 ・考えを文章化する機会を増やしたことで、文章表現への抵抗感を少なくすることができた。 ・表現の仕方や模範を示すことで、積極的に発言できる児童が増えた。 ・要点をまとめて話せる児童が少ない。 ・友達の意見を最後までしっかりと聞く態度が十分育っていない。	・ペアやグループでの学習を増やしたりタブレット活用や役割演技を取り入れたりとすることで、互いの考えを伝え合う時間や場を確保し、個々の表現力を伸ばす。 ・周りの意見に関心を寄せられる児童を増やす。 ・児童の考えをさらに深めたり広げたりする声掛けを工夫する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭学習や基本的な生活習慣がおおむね定着しており、与えられた課題については真面目に取り組む。 ●自分から進んで課題を見つけて取り組むことが苦手である。	・自ら課題を捉え、見通しを持って学習活動に取り組むことができる。 ・課題に対して、自分の問いや考えをもち、まわりの意見にも関心を示しながら、考えを深めようとするができる。 ・自主学習等で苦手な学習にも粘り強く取り組み、学力向上に努めることができる。	・課題を明確に示し、活動の目的をきちんと捉えさせる。 ・考えを整理する時間や意見を伝え合う時間を確保し、ICT活用等様々な表現方法を用いることで主体的に取り組める環境を整える。 ・自主学習の掲示や見本を示すことで、主体的に自主学習が進められるように推進する。		・授業での活動内容を視覚的に提示することで、学習活動に見通しを持ち、時間一杯学習できる児童が増えた。 ・進んで自主学習に取り組む、学習に対する苦手意識を克服しようとする児童が増えた。 ・与えられた課題には最後まで取り組むことができるが、自ら課題を見つけた課題解決する方法を考えたりする力は十分に身につけていない。	・全員がすべき課題に最後まで取り組める体制を整える。 ・自主学習等で頑張っている児童を紹介し、系統的に自主学習の取り組みを進め、学習活動の視野を広げる環境作りをする。 ・ソーシャルトレーニング等を取り入れ、一人一人のよりよい行動や判断につなげる。